Munro と Natty Bumppo

肴　倉　　宏

Munro and Natty Bumppo

Hiroshi Sakanakura

抄　　録

自然とそれを覆う闇は、*The Last of the Mohicans* を構成する重要な要素であるだけでなく、作品のテーマを支える重要な意味も与えられている。自然と闇は、それぞれ、善と悪を象徴的に示している。悪の化身 Magua は、Munro に恐ろしい復讐をする。Natty Bumppo は、Munro の苦しみを理解するだけでなく彼を信仰へと導く。彼のおかげで Munro は、Cora が Uncas のメシヤとしての使命を果たすための死によって救いを得たことを知る。Munro と Natty Bumppo の間係は、物語の前半部と後半部で対比されている。前半部では Munro は砦の司令宮で、Natty Bumppo は斥候として彼に仕えている。対照的に、後半部では Munro と Natty Bumppo の関係は対等な関係である。

キーワード：ジェームズ・フェニモア・クーパー、「モヒカン族の最後の者」、マンロー、ナッテー・バンポー、平等

(1997年 9 月 1 日　受理)

Abstract

The contrast between nature and the darkness covering it constitutes both structural and thematic frames for *The Last of the Mohicans*. Nature symbolizes good while the darkness symbolizes evil. Magua as an evil person takes a terrible revenge upon Munro. Natty Bumppo not only understands Munro's sufferings but also leads Munro to the Christian faith. Thanks to him, Munro knows that Cora obtained salvation through the messianic death of Uncas. The relationship between Munro and Natty Bumppo in the latter part of *The Last of the Mohicans* is contrasted with that of the former part of the story. In the former part of the story, Munro is a commander of the fort and Natty Bumppo as a scout follows him. In contrast, they associate on equal terms in the latter part of the story.

Key words: James Fenimore Cooper, *The Last of the Mohicans*, Munro, Natty Bumppo, equality

(Received September 1, 1997)

H. Daniel Peck は、*The Last of the Mohicans* (1826) の Munro を単に軍人であるだけでなく重要な意味を与えられている人物であると捉えている。Peck は、Munro について次のように述べている。

> But in a fuller sense than that of military responsibility, he represents those values associated in Cooper's imagination with the father/ maker of civilizations. As the commander of the fort, he stands at the forward thrust of the European conquest of the American wilderness and is the necessary predecessor of Judge Marmaduke Temple.[1]

Peck は、Munro をアメリカの荒野に文明を導入する先駆者の役割を果たしていると指摘している。しかし、Munro を闇に覆われた舞台の中で捉え直してみるとどうなるであろうか。Munro を闇に覆われた舞台の中で捉え直してみると、そこには象徴的な意味を与えられた新しい人間像が浮かび上がってくるように思えるのである。そして、*The Last of the Mohicans* の最初の 3 章は、Munro を捉え直す上で重要な意味を持ってくるように思えるのである。

Cooper は、最初の 3 章で Munro に与えた意味を明らかにするために必要な準備をしている。まず重要なのは、物語の舞台を設定することである。雄大な自然が読者の眼前に展開する。Cooper は、第 1 章の冒頭で自然との戦いが敵対するもの同志の戦いに先立つと述べている。続いて、Cooper は、対決する英・仏両軍の大部隊が広大な森林に飲み込まれている様子を描いて "the forest. . .appeared to swallow up the living mass which had slowly entered its bosom." (15)[2] と述べている。敵・味方両軍を飲み込んでしまう自然の広大さが強調されているである。

Cooper は、自然の物理的な広大さを強調するだけでない。彼は、自然が象徴的な意味も与えられていることを示そうとする。Howard Mumford Jones は、Cooper のパノラマ的な自然描写が Hudson River School に属すると言われている画家たちの自然描写と共通していることを指摘した上で、両者が描こうとしたことは、"the grandeur of God working in the universe"[3] であると述べている。Cooper は、神が自然を通して自らを啓示するということを示そうとしたのだ。従って、Cooper の描く自然は、それを見る者の心の中に "the awe or humility"[4] をもたらすものなのだ。Cooper の描く舞台を構成する自然は、宗教的な意味を持つ信仰の対象とされるものなのである。

神の啓示としての Cooper の自然は、同時に作品の舞台を構成するもう一つの重要な要素である死と闇の覆うところでもある。それは、英・仏両軍が植民地支配の覇を競いあって死闘を繰り広げている "the bloody arena" (12) でもあるのだ。そして、死体が累々と続く森林地帯は、闇に包まれている。Cooper は、森林地帯を "an impervious boundary of forest" (11) や "the interminable forests" (13) と描き、森の中は光を通さず昼なお薄暗いという。Cooper の作品には、物語が夕方かから始まって夜へと進むものが多い。*The Last of the Mohicans* でも冒頭の残照がすぐさま夜の闇にかき消されてしまうことで、森の中はより一層暗さを増す。この点について、Thomas Philbrick は、"almost

always Cooper's protagonists are hemmed in by darkness, mist, or the cover."[5] と述べている。闇に包まれ死体の転がる森は、まるで墓場のような不気味な様子をしているのである。

Cooper は、死臭を漂わす闇を一人のインディアンと結び付けて描いている。読者は、このインディアンの名前が Magua であると知らされるのだが、彼は物語が始まるとすぐに大自然の舞台に登場するのである。夕暮れに Edward 砦に "the unwelcome tidings" (17) をもって現れたこのインディアンは、これからすぐに訪れる不吉な闇の前触れなのである。Cooper は、この男と闇の結び付きを強調する。この男の表情は、闇のように暗い。そればかりか、Magua の表情の暗さは、見る者にただならぬ嫌悪感すら与えている。Cooper は、彼の表情を次のように描いている。

> The colours of the war-paint had blended in dark confusion about his fierce countenance, and rendered his swarthy lineaments still more savage and repulsive, than if art had attempted an effect. (18)

Cooper は、Magua の暗さが顔にぬった絵の具の効果だけによるものではないという。こうして、Cooper は、Magua の表情に浮かぶ暗さがこの男の本質に根ざしていることを暗示している。

Cooper は、物語の進行につれて Magua の本質を読者に明らかにする。そして、彼は舞台を包む闇の性質を明らかにしてゆくのである。Magua は、倫理的に堕落したインディアンとして描かれている。彼は、白人と接触し "the fire-water" (102) を飲むことを覚え、"a rascal" (102) になり下がったのだ。文明と接触し宗教的な意味を与えられている自然との関係を失ったことが、彼の堕落の原因なのである。やがて、Magua は、大虐殺を引き起こした首謀者として読者の前に現れる。第 17 章の William Henry 砦の虐殺の場面は、イギリス軍の将兵とともに婦人や子供までがインディアンに殺された歴史的に有名な事件である。Cooper は、この事件と Huron 族を結び付ける。Huron 族が大量殺戮を行ったのだと言う。そして、Cooper の Magua は、Huron 族を操って彼等にイギリス軍の将兵と婦人や子供を襲撃させ虐殺させたのである。森林地帯に転がる死体は、血に飢えた Magua の暗躍の結果なのである。Magua は、"the dusky savage the Prince of Darkness, brooding on his own fancied wrongs, and plotting evil" (284) なのである。Magua は、悪の化身なのだ。大自然という舞台は、倫理的腐敗を隠蔽し悪の跳梁を許す象徴的な意味を帯びた闇に覆われているのである。

Cooper は、まず初めに物語の舞台を設定した。宗教的な意味が与えられた自然は、背後におしやられその表面を倫理的腐敗を隠す闇が覆っている。Magua が君臨する舞台は、James Franklin Beard がいうように "his [man's] fallen state"[6] なのである。こうして、Cooper は、これから闇に覆われた舞台で起こる事柄にまつわる問題の中心が悪の認識に関するものであることを暗示するのである。

Munro が、倫理的腐敗を隠し悪の跳梁を許す闇に覆われた舞台に登場する。彼は、"the order for dignity and antiquity" (157) である "The Thistle" (157) 勲章を与えられた

先祖を持つスコットランド屈指の名門の家柄に生まれたのである。彼は、スコットランドの貴族なのである。アメリカの植民地支配を巡ってフランスと覇を競い合っている今、彼はイギリス軍の前線基地 William Henry 砦の司令官をしているのである。司令官として彼は、砦の秩序を守るため一つの規則を定めたのだ。それは、酒を飲んで上官の幕営に来てはならないという規則である。しかし、かつて Munro 大佐の部下として仕えていた Magua は、この規則を破ったのである。Magua は、そのことを Munro の娘 Cora に次のように語る。

> The old chief at Horican, your father, was the great captain of our war party. He said to the Mohawks do this, and do that, and he was minded. He made a law, that if an Indian swallowed the fire–water, and came into the cloth wigwams of his warriors, it should not be forgotten. Magua foolishly opened his mouth, and the hot liquor led him into the cabin of Munro (103)

Magua は、酒を飲んで Munro の幕営にいったのだ。Magua が規則を破ったため Munro は、鞭打ちの刑で彼を厳しく罰したのだ。Magua は、屈辱的な罰を受けたことを根に持ち Munro に復讐しようと計画を立てるのだ。Magua は、Munro を情け容赦なく苦しめようと策を練るのである。

悪の化身 Magua は、Munro の司令官としての名誉を失墜させようと企むのである。そのために彼は、Munro の上官 Webb 将軍を利用するのだ。Magua は、夕闇迫る頃 Webb 将軍の駐屯している Edward 砦に "the unwelcome tidings" (17) を持ち込むのである。彼は、フランス軍の Montcalm 将軍の率いる大軍が William Henry 砦に迫っていると Webb 将軍に伝えるのだ。悪の化身 Magua が砦の中に入ったことは、悪が砦を支配し始めたことを暗示している。実際、Webb 将軍は、フランス軍の倍ちかい軍を指揮下においているにもかかわらず恐怖心で縮み上がり戦意を喪失してしまうのだ。彼は、自ら軍を率いて Montcalm を迎え撃つ姿勢を示さず砦に閉じこもっている。そればかりか、彼は、援軍を要請した Munro に援軍を送らず、逆に降伏を進める手紙を送り付ける。Munro は、Webb 将軍の手紙を読んで "The man has betrayed me!" (164) と将軍を非難する。Webb 将軍は、自分の身の安全だけを考える利己的な男なのである。彼は、悪の化身 Magua に人間性を蝕まれ倫理的に荒廃しているのだ。Munro は、倫理的に腐敗した上官に裏切られ見殺しにされるのである。孤立無援の中で Munro は、Montcalm と戦うのだが、結局、William Henry 砦を明け渡すのである。悪の化身 Magua は、Webb 将軍を利用して Munro の司令宮としての名誉を失わせるのである。

悪の化身 Magua は、Webb 将軍を利用するだけではない。彼は、フランス軍の司令官 Montcalm をも利用して Munro の名誉を汚そうとする。Munro 大佐の部下である Duncan Heyward が、降伏条件を取り決めるためフランス軍の陣地にいくと Montcalm を取り囲むインディアンの中に "the malignant countenance of Magua" (153) を見つける。Montcalm 将軍が、Webb 将軍と同様に悪の化身 Magua によって人間性を蝕まれていることを暗示する場面である。実際、Montcalm は、通訳を必要としないほど英語がう

まいのだけれども英語が分からない振りをしてそばで交わされる Munro と Duncan の話を盗み聞くのだ。その上、彼は、Munro 大佐に極めて寛大な降伏条件を提示するけれどもそれを守ろうとしない。彼は、Magua に唆された Huron 族が撤退する将兵やその家族を襲撃し始めると虐殺を止める行動を起こさず Huron 族のなすがままにさせている。寛大なように見える Montcalm は、実は、目的のため手段を選ばない冷酷な男なのである。Munro は、倫理的に荒廃している Montcalm の策略によって多くの人命を失い軍人としての面目を失う。悪の化身 Magua は、Montcalm を利用して Munro の名誉を傷つけるのである。

さらに、悪の化身 Magua は、Munro の個人的な幸福をも打ち砕くのである。Munro の娘 Alice と Cora は、暗い森に潜む Huron 族の待ち伏せの危険を潜り抜け敵のフランス軍の陣地を巧みに通り抜けて William Henry 砦までやってきたのだ。彼等は、父親の Munro と会いたい一心のため危険を冒してきたのである。そして彼等は、砦の中で父親と再会するのだ。Cooper は、Duncan の目に映った Munro 一家の様子を次のように描いている。

> Major Heyward found Munro attended only by his daughters. Alice sate upon his knee, parting the grey hairs on the forehead of the old man, with her delicate fingers; and whenever he affected to frown on her trifling, appeasing his assumed anger, by pressing her ruby lips fondly on his wrinkled brow. Cora was seated nigh them, a calm and amused looker–on; regarding the wayward movements of her more youthful sister, with that species of maternal fondness, which characterised her love for Alice. Not only the dangers through which they had passed, but those which still impended above them, appeared to be momentarily forgotten, in the soothing indulgence of such a family meeting. It seemed as if they had profited by the short truce, to devote an instant to the purest and best affections: the daughters forgetting their fears, and the veteran his care, in the security of the moment. (156)

Munro と娘たちは、フランス軍に包囲され陥落寸前の砦の中でそれぞれの心配や恐怖を忘れ再会できた喜びに浸っている。しかし、Munro 一家の幸福は、砦の陥落と同時に崩れるのだ。悪の化身 Magua は、Munro から家庭的な喜びを奪いとるのである。

その上、Magua は、Munro の娘たちを誘拐する。彼は、William Henry 砦の陥落直後の混乱に乗じて Cora を虜にしようとするのだ。そのために彼は、Cora の妹 Alice を利用する。Alice は、"her dazzling complexion, fair golden hair, and bright blue eyes" (18) と描かれている。彼女は、Munro と白人の母の間に生まれた娘なのである。彼女の容貌は、人種的特徴を示すだけではなく象徴的な意味も与えられている。彼女は、悪を知らない純真無垢な娘なのである。このような Alice は Magua に唆された Huron 族が略奪と虐殺を繰り広げる凄惨な光景を目の当たりにして気絶してしまうのだ。Magua は、気を失っている Alice を抱きかかえて暗い森の中に逃げ込むのだ。彼は、Alice を利用して Cora を

おびきよせ虜にするのだ。悪の化身 Magua は、娘たちを誘拐し Munro に精神的な苦痛を与えるのである。

Magua は、Cora を虜にすることで Munro を完全に支配するのである。Cora は、Alice と対照的に "The tresses of this lady were shining and black, like the plumage of the raven." (19) と描かれている。彼女は、Munro と黒人の血を引く母との間に生まれた混血の娘なのだ。Munro は、混血であるために差別を受けやすい Cora をことのほか案じている。Munro と Duncan の会話に耳を傾けてみることにする。Duncan は、Alice と結婚したいと Munro に申し出る。Cora と結婚したいと申し出るものとばかり考えていた Munro は、Duncan が Cora に対して偏見を抱いているのでないかと疑う。そして Munro は、Duncan に次の様にいう。

> But could I find a man among them, who would dare to reflect on my child, he should feel the weight of a father's anger! Ha! Major Heyward, you are yourself born at the south, where these unfortunate beings are considered of a race inferior to your own! (159)

Munro は、Cora に対する侮辱は自分に対する侮辱であるという。彼は、Cora を侮辱したものを絶対に許さないと強い調子で言う。彼は、Cora の幸福を願っているのだ。Magua は、Cora に寄せる Munro の深い愛情を Duncan の話から聞き出す。そして彼は、Munro の愛情を復讐の手段に使うのだ。彼は、Cora を手元におき奴隷のように酷使することで Munro に苦しみを与えられると考えるのだ。実際、彼は、Cora に邪悪な復讐計画を次のように語る。

> When the blows scorched the back of the Huron, he would know where to find a woman to feel the smart. The daughter of Munro would draw his water, hoe his corn, and cook his venison. The body of the grey-head would sleep among his cannon, but his heart would lie within reach of the knife of le Subtil. (105)

Magua は、たとえ Munro が軍隊に守られていても彼の魂は Magua の手のひらの中にあると凄むのである。Cora を虜にした Magua は、Munro を完全に支配しているのである。

Munro は、悪の化身 Magua に次々と苦難や試練を与えられ苦しんでいる。このような Munro の姿は、ヨブ記のコブを思い起こさせる。Munro は、悪の化身 Magua に徹底的に痛めつけられ苦悩している人物なのである。

Natty Bumppo は、悪の化身 Magua のため苦しめられている Munro に共感できる人物なのである。Natty Bumppo の目は、"The eye of the hunter, or scout. . .was small, quick, keen, and restless, roving while he spoke, on every side of him, as if in quest of game, or distrusting the sudden approach of some lurking enemy." (30) と描かれている。鋭い目は、猟師や斥候としての彼の仕事に不可欠なものである。彼の目は、職業的な特徴を表しているだけでなく象徴的な意味も与えられている。彼の目は、Natty Bumppo が倫理的腐敗を隠し悪の跳梁する闇の中で善・悪を識別できる鋭い洞察力をもっていることを示している。実際、彼は、"a look so dark and savage, that it might in

itself excite fear”（39）と描写された Magua の表情を見ると直ちに“I knew he was one of the cheats as soon as I laid eyes on him!”（39）という。Natty Bumppo は、Magua を悪の化身と判断しているのだ。しかし、同時に、彼は悪に蝕まれた不完全な人間であることも自覚している。Natty Bumppo と Duncan の対話に注目してみる。Duncan は、暗い森の中で会った Natty Bumppo に William Henry 砦まで案内してくれと頼む。Natty Bumppo は、Duncan のガイドとして Magua がいるのを見て次の様にいう。

> 'Tis a natural impossibility!. . .I would't walk a mile in these woods after night gets into them, in company with that runner, for the best rifle in the colonies. They are full of outlying Iroquois, and your mongrel Mohawk knows where to find them too well, to be my companion. (39)

Natty Bumppo は、悪の潜んでいる闇の中で道案内することができる能力を生まれながら持ち合わせていないと告白しているのだ。彼は、悪に蝕まれていることを自覚しているのだ。このような自覚を持つ Natty Bumppo は、悪の化身 Magua に痛め付けられている Munro の苦しみを理解できるのである。彼は、William Henry 砦の陥落や Munro の娘たちの誘拐の出来事の背後に悪の化身 Magua の暗躍を読み取るのである。Natty Bumppo は、Magua に魂を握られている Munro の苦悩を理解し彼に共感するのである。

Natty Bumppo は、Munro の苦悩を理解し共感するだけではない。彼は、Munro を物語の後半部に描かれた世界に案内してゆく役割をも果たしている。物語の後半部に描かれた世界は、知識や理性の通用しない超自然的な世界なのである。超自然的な世界の核心部に Uncas の死が描かれている。Uncas の死に至る過程は、聖書に描かれたイエス・キリストの死に至る過程と重ね合わせて描かれている。Uncas の死は、悪の呪縛から人間を解放し魂の負った傷を癒し人間性を回復させる意味が与えられている。彼の死は、メシヤ的使命を果たすための死なのである。[7] 悪に蝕まれていることを自覚している Natty Bumppo は、かつて、Uncas や Chingachgook の助力を得て超自然的な世界に入っていったことがあるのだ。そして彼は、超自然的な世界の核心部で Uncas の死を目撃し彼の死の意味を理解した。彼は、Uncas の死をメシヤ的な使命を果たすための死と理解したのだ。そればかりか、彼は Uncas の死を通して Chingachgook との関係を一層深めたのである。Chingachgook は、全知・全能の存在を象徴的に表しているのである。[8] 彼は、Chingachgook との関係を深めることで全知・全能の存在と和解し救いを得たのである。[9] 救いを体験した Natty Bumppo は、今度は、悪に人間性を蝕まれて苦悩している Munro を超自然的な世界に導いていこうとするのだ。物語の後半部が始まる第 18 章に注目する。夕暮れ時、フランス軍によって破壊された William Henry 砦の跡に 5 人の男たちが現れる。Cooper は、5 人のことを次のように描いている。

> The reader will perceive, at once, in these respective characters, the Mohicans, and their white friend, the scout; together with Munro and Heyward. It was, in truth, the father in quest of his children, attended by the youth who felt so deep a stake in their happiness, and those brave and trusty foresters, who had already

proved their skill and fidelity, through the trying scenes related. (183)

Natty Bumppo は、娘たちを探そうとしている Munro に手助けをするのだ。彼は、Uncas や Chingachgook とともに Munro を超自然の世界に導いてゆく案内役を務めるのである。Natty Bumppo は、Munro を信仰に導く伝道者の役割を果たそうとするのである。

Natty Bumppo は、超自然的な世界の核心部に迫るのに欠かせない事柄を Munro に教えるのである。超自然的世界の核心部に迫るには、そこに入っていった先人の残した足跡を正確に読み取る能力が必要なのである。優れた読解力を持っている Natty Bumppo は、Munro に足跡の読み方を教えるのだ。Natty Bumppo と Munro の会話をみることにする。Munro は、娘たちの足跡を見て "The tender limbs of my daughters are unequal to these hardships!...we shall find their fainting forms in this desert." (217) と心配そうにいう。不安な気持ちでいる Munro に対して Natty Bumppo は、足跡のもう一つの読み方を示す。彼は、次のように読み解くのだ。

> Of that there is little cause of fear...this is a firm and straight, though a light step, and not over long. See, the heel has hardly touched the ground; and there the dark-hair has made a little jump, from root to root. No, no; my knowledge for it, neither of them was nigh fainting, hereaway. Now, the singer was beginning to be foot-sore and leg-weary, as is plain by his trail. There you see he slipped; here he has travelled wide, and tottered; and there, again, it looks as though he journeyed on snow-shoes. ay, ay, a man who uses his throat altogether, can hardly give his legs a proper training! (217)

Natty Bumppo は、足跡から Cora と Alice が元気で反対に David Gamut が疲れているという。彼は、足跡を残した者たちの気持ちを正確に読み解いているのだ。Munro は、Natty Bumppo から正確で新しい足跡の読み方を学ぶのである。こうして、Munro は必要とされている読解力を身につけていくのである。

Natty Bumppo に導かれた Munro は、超自然的な世界の核心部で Cora と Uncas の死を見るのである。Cora を Magua から取り返そうとした Munro の期待は、Cora の死によって打ち砕かれる。しかし、Munro は Cora の死が悪の化身 Magua に人間性を蝕まれた絶望的な死でないことも知る。超自然の世界の核心部に迫るのに必要な読解力を学んだ Munro は、Cora がメシヤ Uncas の死によって悪の呪縛から解放されていることを知る。彼は、Cora が救いを得ていることを理解するのである。[10] 彼は、愛する娘を失った悲しみを味わうけれども慰めをも与えられるのである。さらに、愛する一人息子 Uncas を失った Chingachgook が悲しみに沈む Munro のそばにいる。Chingachgook は、悪を克服できる全知・全能の存在であることはすでに述べた。彼は、救済計画を実現するために Uncas を犠牲にしたのだ。彼は、Uncas の死を通して自らも悲しみを体験したのである。このような体験をした Chingachgook は、Munro の悲しみを理解するのである。Munro は、Chingachgook の姿を見て自分だけが悲しいのでないことを知る。Munro は、Chingach-

gook から苦悩に耐える力を与えられるのである。[11]

Natty Bumppo は、悪の化身 Magua に苦しめられている Munro を導いてきた。彼の導きによって Munro は、Cora の死の意味を知り慰めを得る。さらに、彼は、Chingachgook から耐える力を与えられる。Natty Bumppo は、Munro が慰めと耐える力を与えられることを願って彼を導いてきたのである。Natty Bumppo は、伝道者なのである。

Munro と Natty Bumppo の関係は、物語の前半部と後半部で対比されている。物語の前半部では、Munro は砦の司令官であり、Natty Bumppo は Munro に仕える斥候である。彼等の関係は、上官と部下という関係である。物語の前半部では、社会的な地位が重要な意味をもっているのである。対照的に物語の後半部では、部下であった Natty Bumppo が Munro を導いている。物語の後半部では、社会的な地位が意味を持たないのである。Natty Bumppo は、教育を受けたこともない一介の猟師に過ぎない。このような Natty Bumppo に導かれる Munro にしても立場の変化に屈辱を感じていない。彼は、スコットランド屈指の名門の家柄を誇るわけでもないし司令宮としての地位を鼻にかけるわけでもない。彼は、Natty Bumppo と同じ人間であることを認識している。彼のこの認識は、砦をフランス軍の Montcalm に明け渡すとき Duncan にいった言葉に示されている。彼は、Duncan に "To–day I am only a soldier, Major Heyward." (171) と言っている。彼は、司令官でなく一兵卒であることを認識している。物語の後半部に描かれた Munro と Natty Bumppo の関係は、社会的地位にとらわれない対等な人間関係なのである。

Munro を導く伝道者としての Natty Bumppo は、David Gamut と対比されている。David は、New England 出身の賛美歌教師でキリスト教の伝道に熱心な男である。彼は、また、Yale 大学を出たエリートでもあるのだ。大学教育を受けた聖職者である彼は、一般信徒と馴れ馴れしく接するべきではないと考えている。実際、彼は、"It is not prudent for one of my profession to be too familiar with those he has to instruct." (24) という。彼は、一般信徒と距離を置くのだ。その上、彼の伝道するキリスト教は、教義と敬虔な宗教感情に支えられているけれどもメシヤ理解を欠いているのである。[12] David と対照的に、Natty Bumppo は専門的な神学教育を受けたこともない猟師である。無学だけれども彼は、Chingachgook や Uncas の助力を得て読解能力を身につけ Uncas をメシヤと理解したのだ。そして彼は、救いを得たのである。この救いの体験が、Natty Bumppo を伝道者にしたのである。しかも、彼は、地位に関係なく悪に苦しむものには誰に対しても語り掛け導いていこうとするのだ。学識を誇る David と対照的に伝道者としての Natty Bumppo の姿は、救いを得たものは誰でも伝道者になり得ることを示している。

Natty Bumppo に教え導かれる Munro は、Duncan と対照されている。Duncan は、アメリカ南部出身で財産と教養に恵まれたエリートである。そして彼は、戦時中の今、"the Royal Americans" (38) の少佐をしている。エリートである Duncan は、地位や肩書きにこだわるのだ。彼は、Natty Bumppo がイギリス軍の斥候をしていると分かると高圧的な態度に出る。彼は、Natty Bumppo に "If you serve with the troops of whom I judge you to be a scout, you should know of such a regiment of the king as the 60th." (38)

という。彼は、部下である Natty Bumppo に命令されると“with strong disgust”(40)と述べられているように嫌悪感を表す。Duncan の Natty Bumppo に対する態度は、物語の後半部になっても変わらない。Natty Bumppo が敵の撃つ弾を避けるためカヌーの底に身を伏せなさいと Duncan に忠告すると、Duncan は Natty Bumppo に“It would be but an ill example for the highest in rank to dodge, while the warriors were under fire!”(207)と答えている。Duncan は、最初から最後まで地位や肩書きにこだわるのだ。彼と対照的に Munro は、砦の陥落以後地位にこだわることはない。彼は、Natty Bumppo を対等な人間として認め彼から教えられることに何の違和感も感じない。Munro は、地位にとらわれず誰からでも謙虚に学ぶのである。Munro と Natty Bumppo は、家柄の善し悪しや教育の有無そして社会的地位にとらわれず学び教えあうのである。彼等は、互いに対等な人間として認めあっているのだ。Cooper が Munro と Natty Bumppo の対等な関係を描いたのは、神の前における人間の平等を強調したかったからであろう。

注

(1) H. Daniel Peck *A World by Itself: The Pastoral Moment in Cooper's Fiction* (New Haven: Yale University Press, 1977) 115

(2) James Fenimore Cooper *The Last of the Mohicans; A Narrative of 1755* (Albany: State University of New York Press. 1983) 本論文中の作品からの引用は、全てこの版による。なお、( ) 内の数字は、そのページを示す。

(3) Howard Mumford Jones *History and The Contemporary: Essays in Nineteenth-Century Literature* (Madison: The University of Wisconsin Press, 1964) 72

(4) Donald A. Ringe *The Pictorial Mode: Space and Time in the Arts of Bryant, Irving and Cooper* (Lexington: The University of Kentucky, 1971) 44

(5) Thomas Philbrick "*The Last of the Mohicans* and the Sounds of Discord" *American Literature*, 43 (1971) 31

(6) James Franklin Beard "Afterward," *The Last of the Mohicans* (New York: New American Library, 1962) 424

(7) 拙論「時間の中心 Uncas—クーパーの描いたメシヤ像—」大阪女学院短期大学紀要第 19 号 (1988) 87—103

(8) 拙論「Chingachgook と Magua—クーパーの神義論—」大阪女学院短期大学紀要第 27 号 (1997) 53—62

(9) 拙論「Glenn's の彼方へ—Cooper の救い—」大阪女学院短期大学紀要第 24・25 号 (1995) 109—120

(10) 拙論「Cora Munro の死の意味」大阪女学院短期大学紀要第 24・25 号 (1995) 77—87

(11) 拙論「Chingachgook と Magua」大阪女学院短期大学紀要第 27 号 (1997) 53—62

(12) 拙論「偽キリスト David Gamut」大阪女学院短期大学紀要第 24・25 号 (1995) 89—98